

## 一般教育「稲作」の試験答案より

歳 森 茂

ベトナム戦争において米軍が行なった枯葉作戦と日本における農薬の作用……この二つに根本的に共通したものが見られる。

この根本的なものを含めて、または それを中心にして、あなたの農薬論（肯定的でも否定的でもよい）を展開しなさい。

上記の題は、昭和57年2月19日に行なった一般教育「稲作」（4単位）の試験問題の3題中の1題である。稲作について、本年度は4回担当したが、農薬の含む諸問題については2回にわたって解説し、枯葉作戦については10月23日主として口頭で説明した。すなわち、「徳島の暮しを守りよくする会」からの恵送パンフレットを資料として、「ベトナム戦争において米軍はこれこれの除草薬によって枯葉作戦を行なったが、その農薬が土じょうを悪変させ、又、土じょうに残存した農薬は、そこで栽培された作物を食べた人々の子供（戦後生れた子供）に奇形児を発生させた」ことを説明した。そして、これと同じ内容が2月に至って朝日新聞に載り、又、NHK テレビでショッキングに（私は見えていないが）放送された。

私は、「戦争を知らない世代」に属する現代の学生が、枯葉作戦を通じて見る戦争の悲惨さを、どのように感知しているか、又、私の講義によって得た知識が生きているかどうかを知りたくて、少々ひねった問題を出してみた次第である。

その結果を、258名（1年生が94.6%）の受験生について分類すると、次のようであった。

(1) 共通している本質的なものを良く又は比較的良く理解している者	47名 (18.2%)
(2) 共通しているものを浅く理解している者 枯葉作戦は悪いとして、その理由を書いていない者 土壌汚染や自然破壊だけを書いた者など	112名 (43.4%)
(3) 共通したものについて言及していない者 枯葉作戦の内容の良く分らない者 ただ単に自分の主観的農薬論に終わっている者など	99名 (38.4%)

「稲作」の受講生は非常に多いが、農業を知らない者が多く講義の進め方にはいつも苦勞している。そう難しい内容をやるわけでないので、新聞などをよく読んで新聞常識程度は身につけていてほしいものである。紙数の関係から、良く理解し内容も良いと思う者1名と、枯葉作戦の内容を知らない者1名の作文の大意を載せる。約20分そこそこで書きあげるには難しかったかも知れないが。作文中のアンダーラインは当方で引いたものです。学生の答案や作文を通して現代の若者の（一部に過ぎないかも知れないが）一つの姿を知ることができている。

(1) ベトナム戦争における米軍の枯葉作戦…これは米軍にしてみればじまな木々を取り除く科学的な画期的な方法であったろう。それに反対する科学者がいたとしてもその人たちは後に、これほどまでに大きな影響を与えるということを予測していたであろうか。この作戦に連なる人々の物の考え方として2つあげられると思う。ひとつは目的のためなら手段をえらばない……的な考え方である。そこまで露骨ではないと思うがどんな結果がでも適当に言い訳をつくれればいいではないかという考え方である。そしてもうひとつは国民の無知である。問題になることがなければそれを知ろうともしないしまた、知らせようとしもない。

日本における農薬の散布もこれと同じである。そして、現在の東南アジアの輸出向け農作物の生産はその通りなのではないかと思う。

消費者が望むとおりのきれいな絵に書いたような、野菜なり果物を出荷する。「そうしなければ買ってくれない」と言う前に、無知な消費者にむかって、農

薬の恐しさ、そして現在の使用状況を知らせることも必要なのではないか。そして、それを知っていてもきれいな農作物を買おうとする消費者は再認識すべきである。消費者も受け身のままではいけない。自分たちの体は自分たちで守らなければいけない。

そんな農薬はなくしてしまいたいと思ったりもするが、そうもできない。ある程度は仕方のないものである。ただ、農業に従事している方々に、「消費者が買ってくれないから……」とばかり言わないで、もっと努力してもらいたいとも思う。毎日、田んぼに出て、暑い時も寒い時も一日中働いている方もおられる。私はそういう方を見て本当に大変だなあと感心もする。けれど、土地の値上りを待って、言い訳け程度に作物をつくっているというのも見かける。

国民全体が国民自身の健康にもっと関心を持ち努力することが大切であると思う。

(法学部1年、女子、K, K)

(2) ベトナム戦争において米軍が行なった枯葉作戦についてよく知らないのでそれと日本における農薬の使用を深く関連づけることができませんが、農薬の作用から想像すると枯葉作戦とは、ベトナム中に何か有害な薬物を与えることによって武器の使用によるよりも有効にダメージを与えたものなのではないかと思う。

農薬は今や農業に絶対不可欠のものであるが農薬の使用のうちわけにおいてはその種類も使用量も増加しているのではないかと思う。米の質を向上させることはもちろん奨励すべきことだと思いがあまり農薬を使いすぎるのも考えものであると思う。考えてみれば昔は農薬がなくても米はとれたはずである。それが科学の進歩とともに、人工的に米の質をよくすることができるようになりそれからは改良に改良を重ねて現在に至っているのだと思う。しかしここで見落してはならないのは農薬によってもたらされる害である。いくら、水や土じょうに有効であると言って使っても人体に害があるようでは米の質向上以前の問題になってしまう。このような問題は何年も前から着目されてきたので現在にはそれになお科学の手を加えてより良いものを作り出しているだろう。農薬

によっていい物は使う……少しでも危険性のあるものは避けるというふうによく  
まく取捨選択しながら使用していくのが最も良い方法ではないかと思う。

(教育学部, 1年, 小, 女子, U, CH)